

ドイツ語 (初級 A) 第3回 動詞の現在人称変化

範囲: 教科書第1課 (S. 8-11)

《今回の基本例文》

1. Paris liegt in Frankreich. Berlin und München liegen in Deutschland. (CD5-6)

パリはフランスにある。ベルリンやミュンヘンはドイツにある。

[平叙文、規則動詞の現在人称変化、(前置詞 ⇒教科書第5課)]

2. Wohnst du in Tokyo? – Nein, ich wohne in Osaka. (CD5-7)

君は東京に住んでいるの? – いや、僕は大阪に住んでいるよ。

[決定疑問文、(人称代名詞 ⇒教科書第6課)]

3. Was machen Sie? – Wir lernen Spanisch. (CD4-3)

あなたがたは何をなさっているのですか? – 私たちはスペイン語を学習しております。

[疑問詞を含む疑問文、疑問詞]

4. Was bist du? – Ich bin Hausfrau. (CD8-3)

君は何者なの? – 私は主婦だよ。

[不規則動詞 sein の現在人称変化]

5. Hast du Zeit? – Ja, ich habe Zeit. (CD9-4)

君は(いま)時間があるの? – うん、あるよ。

[不規則動詞 haben の現在人称変化]

6. Er wird wieder gesund. (CD10-2)

彼はふたたび健康になる(だろう)。

[不規則動詞 werden の現在人称変化]

I 動詞に関する大前提: 不定詞と不定詞句

■ 動詞の基本構造と不定詞

英語の「原形」 = 不定詞 = OO + -en
(語幹) (語尾)

◇ 辞書に載っている動詞の基本形を、**不定詞**という(まだ後述する人称変化をしていない「不定」のかたちであるため)。

* 英語では「原形」と呼んでいるものであるが、英語でも *to* がつくると *to* 不定詞と呼ばれるのは周知の通り。

・つまり、不定詞から -en を除くと語幹になる。

→ lernen の語幹は lern、kommen の語幹は komm、lieben の語幹は lieb。

・一部、語尾が -en ではなく -n の動詞が存在する。(⇒教科書 S. 10)

■ 不定詞句

不定詞句 = 副詞句－目的語－動詞 (不定詞)

副詞句－述語内容語－動詞 (不定詞)

* 述語内容語とは、英語でいう「補語」(第2文型=SVCのC)のこと(後述)。

◇ ドイツ語には**不定詞句**という概念がある。いま説明した動詞の不定詞に目的語や述語内容語や修飾句を組み合わせた表現が不定詞句であり、主語が加わって文になる以前の基本的なまとまりとなる。箇条書きやレシピのような手順を示す文書は、この不定詞句で書かれることがある。

* 教科書 S. 8-9 の Übung 1 の注で言及されているもの。

◇ 英語の *to* 不定詞は、動詞 (原形) －目的語/補語－副詞句の順である。一方、ドイツ語の不定詞句は、副詞句－目的語/述語内容語－動詞 (不定詞) の順になる (日本語の語順に近くなる) ことに注意。

Deutsch lernen (目的語－動詞)

ドイツ語を学ぶ

fleißig Deutsch lernen (副詞－目的語－動詞)

勤勉にドイツ語を学ぶ

sehr fleißig Deutsch lernen (副詞句－目的語－動詞)

極めて勤勉にドイツ語を学ぶ

(to) learn German very diligently

極めて勤勉にドイツ語を学ぶ

Student sein (述語内容語－動詞)

学生である

(to) be a student

学生である

・ドイツ語の熟語はすべて不定詞句のかたちで書かれるので、なるべくこれに慣れておくとよい。

* 例えば、「～に参加する」を示す英語の熟語は「take part in-」や「participate in-」と書かれ、辞書にもそう載っている。同じ意味のドイツ語の熟語は、「an-teilnehmen」と、動詞が最後に来るかたちで書かれ、辞書にもそう載っている。

・英語でいう「補語」(5文型におけるSVCのC)のことをドイツ語では**述語内容語**や述語補足語などと呼んでいる。この授業では、教科書に合わせて「述語内容語」と呼ぶことにする。

練習

[] 内の語彙を参考に、日本語の意味になる不定詞句をつくれ。

1. 中国語を学ぶ。[Chinesisch 中国語 lernen 学ぶ]
2. 物理学を研究する。[Physik 物理学 studieren 研究する]
3. 本を読む。[Bücher 本 lesen 読む]
4. 疲れている。[müde 疲れた sein である]
5. 極めてよくドイツ語を話す。[sehr 極めて gut よく Deutsch ドイツ語 sprechen 話す]
6. 明日ベルリンに行く。[morgen 明日 nach Berlin ベルリンに fahren 行く]

II 動詞の現在人称変化

1 基本的な現在人称変化 (S. 8)

ich -e wir -en
du -st ihr -t
er -t sie -en

主語に応じて動詞の語幹に上記の語尾をつける = 動詞の**現在人称変化**

* 便宜上、3 人称単数の人称代名詞は er で統一し、敬称の Sie の変化形は 3 人称複数の sie と同じなので省略する。

◇ 英語の動詞の現在形を考えてみよう。例えば、*learn* は各人称に対して、

I learn, you learn, he learns, we learn, you learn, they learn

となり、3 人称単数現在形では動詞の原形に語尾-s がつく。*be* 動詞はもっと露骨で、

I am, you are, he is, we are, you are, they are

のように、各人称に対してバラバラのかたちになる。これが動詞の**現在人称変化**である。

* 「人称」概念（1 人称／2 人称／3 人称に対して単数と複数がある）は英語で学習済みのはず。わかりますね？

◇ 動詞の現在人称変化と一緒に、**人称代名詞**を覚えてほしい。

* ここで登場する人称代名詞はすべて 1 格。授業第 1 回で少し触れた通り、1 格は「主語になるかたち」と考えておけばよい。

格全般については教科書第 2 課で、人称代名詞全般については教科書第 6 課でのちほど扱う。

		ドイツ語	英語
単数	1 人称	ich	I
	2 人称（親称）	du	you
	3 人称	er / sie / es	he / she / it
複数	1 人称	wir	we
	2 人称（親称）	ihr	you
	3 人称	sie	they
単数＋複数	2 人称（敬称）	Sie	you

・英語の *I* と異なり、1 人称単数の ich は文頭でなければ小文字ではじめる。

・2 人称の人称代名詞には親称の du（単数）や ihr（複数）と敬称の Sie（単数および複数）の 2 種類があり、場合に応じて使い分ける。敬称の Sie は語頭大文字であることに注意。日本語で敬語を使わないときは du、使うときは Sie と考えればよいが、現代語の原則では、相手が du を使うならこちらも du、Sie を使うならこちらも Sie を使う。

・3 人称単数の人称代名詞は、男性が er、女性が sie（語頭小文字）、中性が es で、いまのところ表の通りそれぞれ *he*、*she*、*it* に対応すると考えておけばよい。

* 英語との違いは、教科書第 2 課で「性」が登場したときにあらためて説明する。

・特に sie/Sie に注意。3 人称単数女性 (*she*)、3 人称複数 (*they*)、2 人称敬称 (*you*) の 3 種類あり。

◇ **規則動詞**の場合、現在人称変化は、動詞の語幹に本資料 S. 3 冒頭の表に掲げた語尾を加えてつくられる。これをまとめたのが、教科書 S. 8 の表である。まず、この表をマスターしてもらいたい。

	lernen	kommen	lieben
ich	lerne	komme	liebe
du	lernst	kommst	liebst
er	lernt	kommt	liebt
wir	lernen	kommen	lieben
ihr	lernt	kommt	liebt
sie	lernen	kommen	lieben

* lernen の er の発音は、「エア」に近いものを用いる（er や der と同じ）。

** 規則動詞ではない動詞の現在人称変化は、これからおいおい学んでいく。

2 現在人称変化のヴァリエーション (S. 9)

◇ ここで挙げられている動詞も規則動詞として扱われるが、**1**で学んだ典型的な規則動詞とは微妙な差異がある。ただし、そうなる理由については、以下のように考えればよい。

・ a) **arbeiten 型**（語幹が-tなどで終わる動詞）に関しては、語調を整えるために du、er、ihr の変化形で e が挿入されている（*du arbeitst や*er arbeit のようなかたちを避けている）。

* 便宜上、実際には存在しない語形には「*」をつける。

	arbeiten
ich	arbeite
du	arbeitst → arbeitest
er	arbeits → arbeitet
wir	arbeiten
ihr	arbeits → arbeitet
sie	arbeiten

・ b) **reisen 型**（語幹が-sなどで終わる動詞）に関しては、規則をそのまま適用すると*du reisst や*du sitzt のようなかたちが出現するが、これは er reist や er sitzt と発音的に区別できないため、それらと同じ du reist や du sitzt を採用していると考えればよい。

	reisen
ich	reise
du	reisst → reist
er	reist
wir	reisen
ihr	reist
sie	reisen

・ c) **tun** 型（「語幹+en」ではなく「語幹+n」で構成されている動詞）は、基本的には語幹に規則通りの語尾をつけていけばよい。ただし、**wir** と **sie** に対しては、不定詞と同じかたちが現れる。

	tun
ich	tue
du	tust
er	tut
wir	tuen → tun
ihr	tut
sie	tuen → tun

* 教科書 S. 10 のもう一つの例である ändern は、ich に対して ändere のほかに ändre というかたちも持っている。現段階では、取り敢えず規則的な方を覚えておけばよい。

3 sein, haben, werden の現在人称変化 (S. 10)

be 動詞 = **sein**
have = **haben**
become = **werden**

◇ 先述のように、英語でも、*be* 動詞は完全に不規則な人称変化を行う。ドイツ語でも、**sein**、**haben**、**werden** といった基本的な動詞は不規則変化動詞である。これらはすべて、(当然ながら) 極めて頻繁に登場する動詞であり、いずれも教科書 S. 10 の表をもとに速やかに覚える必要がある。

* werden は未来形や受動態に用いるため、英語の *become* よりはかなり重要性が高くなっている。

◇ **sein** に関しては、すべての変化形を覚える必要がある。

	sein
ich	bin
du	bist
er	ist
wir	sind
ihr	seid
sie	sind

* bin や bist は英語の *be* と、ist は英語の *is* と似ている。

** 英語の *be* 動詞では、過去形は *was* や *were*、過去分詞は *been* である。もちろん現段階では未登場ながら、ドイツ語の **sein** の過去基本形 (=英語でいう過去形) は **war**、過去分詞は **gewesen** で、こちらもかなり不規則である。英語の *be* 動詞やドイツ語の **sein** の各種変化形がこのようにまったく規則性を欠いているのは、もともと異なった 3 種類ほどの動詞が *be* 動詞や **sein** のなかに組み込まれたからであると言われている。

◇ **haben** に関しては、**du** と **er** に対するかたち (教科書の太字部分) のみ不規則で、ほかは規則動詞と同じになる。よって、**du hast**、**er hat** というかたちのみ覚える。

	haben
ich	habe
du	hast
er	hat
wir	haben
ihr	hat
sie	haben

* **hat** は発音に注意。授業第2回で学んだルール「アクセントのある母音のあとの子音が1つならその母音は長母音」の例外で、この **a** は短母音である。

◇ **werden** に関しても、**du** と **er** に対するかたち (教科書の太字部分) のみ不規則で、ほかは規則動詞と同じになる。よって、**du wirst**、**er wird** というかたちのみ覚える。

	werden
ich	werde
du	wirst
er	wird
wir	weden
ihr	werdet
sie	werden

* **werden** の **er** の発音は、「エア」に近いものを用いる (**er** や **der**、あるいは **lernen** と同じ)。

練習問題の補足

Übung 1 (S. 8-9)

8. **Fräulein** は未婚女性に対する敬称であったが、現在では使わず (英語の *Miss* と同様)、もともとは既婚女性に対する敬称であった **Frau** に統一されているので注意。 女性だけ未婚/既婚で敬称を分けるのは差別的と考えられるようになったため。

Übung 2 (S. 9)

6. **in** は前置詞で「～のなかで、～のなかへ」。英語の *in* と考えてよい。 (⇒教科書第5課)

8. **gern** は副詞で「好んで」の意味。**gerne** というかたちもあり。店頭などでは「～をください」のような注文のニュアンスで使われることもある。ここでは **nicht** (後述) が **gern** を否定しているので、「ビールを飲むのは好きではありません」の意味になる。

Übung 7 (S. 11)

1~4. ドイツ語の場合、未来形は現在形で代用することができる。これらの文についても、未来形的に解釈してもよい。 (⇒教科書 S. 48)

Ⅲ 単純な文の組み立て方

■ 単純な文の組み立て方

平叙文: 主語-動詞-目的語/述語内容語/副詞句+.

決定疑問文: 動詞-主語-目的語/述語内容語/副詞句+?

補足疑問文: 疑問詞-動詞-(主語)+?

* いずれも現時点での目安。細かい理屈はのちほど、教科書第2課B以降に扱う。

◇ 現時点では、単純な文の組み立て方としては、英語で習った SVO あるいは SVC 語順と同じものをベースに考えておいてもらいたい。

* いまさら断るまでもないが、英文法では S は主語 (subject)、V は動詞 (verb)、O は目的語 (object)、C は補語 (complement) を意味していた。

** 学生にありがちなのは、O と C の区分を曖昧に理解しているパターンである。ドイツ語学習において、これは特に躓きの原因となる事態なので、格が登場する次回以降、詳しく復習することにした。

◇ **平叙文**とは、「～する」や「～である」といった断定を表す文のこと。疑問文や命令文ではない、いわゆる普通の文。SVO や SVC の語順で書き、句点 (.) で締めればよい。

* 句点は英語ではピリオド (period) だが、ドイツ語ではプンクト (Punkt) という。

Wir lernen Deutsch.

私たちはドイツ語を学んでいる。

Wir kommen aus Frankreich.

私たちはフランス出身である。

* aus は前置詞で「～から」。英語の from。 (⇒教科書第5課)

◇ **決定疑問文**とは、「はい」か「いいえ」で答える疑問文のこと。英語の do や does にあたる助動詞は必要なく、平叙文における主語と動詞をひっくり返し (VSO や VSC)、疑問符 (?) で締める。答え方については、取り敢えず、

・「はい」 = ja

・「いいえ」 = nein

と考えておいてほしい。

* 詳しくは教科書 S. 21 で扱う。

Lernst du Deutsch?

君はドイツ語を勉強していますか?

- Ja, ich lerne Deutsch.

はい、私はドイツ語を勉強しています。

